



<佐渡裕芸術監督からのビデオメッセージ>

## “心の広場”に再び集う日まで

皆さんこんにちは、兵庫県立芸術文化センター芸術監督の佐渡裕です。まずは、残念なお知らせです。この7月に予定しておりましたオペラ「ラ・ボエーム」の公演をひとまず中止することが決定しました。(※)

理由として、いくつかの困難な状況があげられます。

私たちは舞台装置、衣裳をイタリアで発注しています。日本で作れるのではないかという話もありますが、やはり私たちが求めてきた色彩感、空間のイメージでありますとか、当センターで作ってきたオペラのこだわりがありました。その水準を下げてまで、あるいは違う方向から制作するというのは、私としては抵抗がありました。

もうひとつ非常に大きな点は、海外にいる歌手たちが、今この状況で日本にやってくると、当然2週間の自宅待機が想定されるため、練習時間が十分に取れないということです。

同時に、合唱団の人たちが集まり練習することもいつから開始できるのか、今はわかりません。

それでも、7月まではまだ時間があります。上演をするかどうか皆が悩みました。誰もがこのオペラをやりたいと思っていました。ですが、クオリティを下げることは絶対に許せませんし、兵庫でずっと積み重ねてきたことをこれからも皆さんに届けていく、これこそ絶対に守らなければならないことです。やむを得ず、この7月の上演に関しては中止することになりました。

私の構想、そして、皆と今話し合っていることは、この「ラ・ボエーム」はこの先、必ず上演しようということです。今回集まってくくださる予定だった世界中のキャストの皆さん、そして同じデザインで、必ず兵庫の舞台での上演を実現したいと思っています。(※)

私がこの15年間、芸術文化センターのスタッフの皆と作ってきたのは、この劇場が街の“心の広場”になること、街の人たちに“心のビタミン”を届けることでした。

中止の報告をすることは本当に辛いことですが、今の新型コロナウイルス感染拡大の状況から、まずは皆が健康と、安全な生活を取り戻すことが最優先だと思います。

15年間、多くの方が「自分たちの劇場だ」、「自分たちのオーケストラだ」と思って来てくださり、劇場を通して人と人との絆が作られてきました。阪神・淡路大震災からの復興のシンボルとしてできたこの劇場が、そうしたものを創りあげてきたのです。これが、コロナの影響によって、健康はもちろんのこと、人と人とのつながりが失われていくことが私は一番心配です。

また皆さんと、この劇場で、笑顔で、健康で、素晴らしい舞台芸術を楽しめる日が来ることを、心より願っています。

兵庫県立芸術文化センター 芸術監督 佐渡 裕

※「ラ・ボエーム」は令和4(2022)年7月に延期して上演する予定です。どうぞご期待ください。